

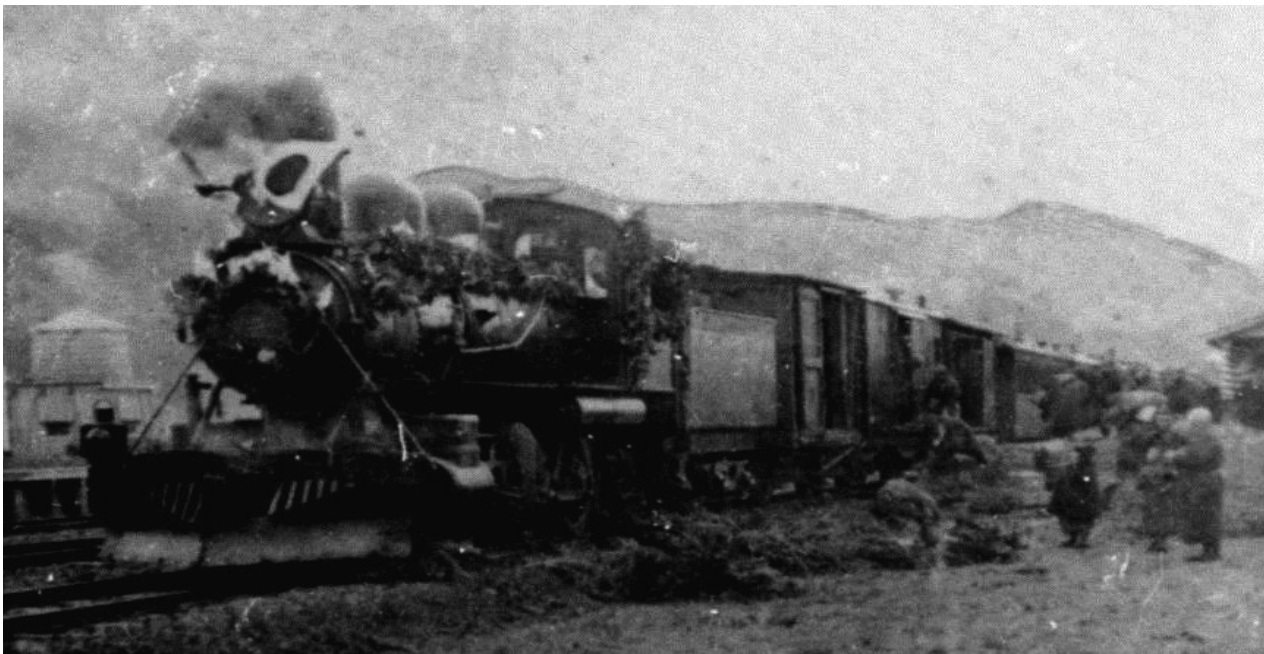
## ナヲ新天地へ

---

明治<sup>めいじ</sup>43年（1910）11月22日、3人の子どもを<sup>つ</sup>連れた  
1人の婦人<sup>ふじん</sup>が完成<sup>かんせい</sup>したばかりの留萌<sup>お</sup>駅に降り立ちました。

明日は深川<sup>ふかがわ</sup>から留萌の間に一番列車が走る留萌線開通  
の日となっており、駅はその準備<sup>じゅんび</sup>を急ぐ人たちでざわめい  
ていました。

明日の本番<sup>そな</sup>に備えて、試運転<sup>しうんてん</sup>をしていた列車に乗り込み  
留萌にやってきたのです。



留萌線開通日の一番列車

待ち受けていたのは、料理屋<sup>りょうりや</sup>を留萌<sup>けいえい</sup>で経営している兄の  
日下部主計<sup>くさかべかずえ</sup>と染め物屋<sup>そ</sup>をしている弟の佐藤彦太郎<sup>さとうひこたろう</sup>でした。

兄と弟の姿<sup>すがた</sup>を見つけると、今まで張りつめていた気持<sup>は</sup>  
ちがすーっとゆるみ、自然<sup>しぜん</sup>と笑顔<sup>えがお</sup>になっているナヲでした。



留萌線開通時の留萌駅



昔の留萌駅だMO~!